



# カリブ最南端の国 「トリニダード・トバゴ」

株式会社 ラティーン

カリブ最南端の国「トリニダード・トバゴ」は、トリニダード島とトバゴ島の2つの島からなり、2つの島を合わせた国土は日本で言うと千葉県くらいになります。最近ではテレビでも取り上げられるようになるなど、今最も注目のニューデスティネーションです！



出典：外務省 政府開発援助 ODAホームページ

見どころ  
1

## 世界三大カーニバルのひとつ！ 見るより踊れの完全参加型！ 「トリニダード・カーニバル」



リオ、ベネチアに並ぶ世界3大カーニバルのひとつとして知られる「トリニダード・カーニバル」は、毎年2～3月のカトリックの暦に合わせて開催されます。

巨大スピーカーを積んだトラックから流れるソカ・ミュージックやスティールパンの演奏にのせ、マスカレーダーと呼ばれる着飾った人々が踊り、パレードがポート・オブ・スペイン市内を練り歩きます。

地元の人たちはもちろん、世界中から数万人の人々がこのパレードに参加するためにトリニダードを訪れます。

振り付けや細かいルールは特になく、ただ音に身をまかせて踊るだけ。好きなバンド(チーム)に参加料を払えば、チームの衣装を身にまといパレードに参加することも可能です。



見どころ  
2

## ドラム缶から作られる20世紀最後のアコースティック楽器 「スティールパン」

スティールパン(Steelpan)は、ドラム缶から作られた音階のある打楽器で、独特の倍音の響きを持った音色が特徴的です。トリニダード・トバゴ共和国発祥のこのスティールパンは、「20世紀最後にして最大のアコースティック楽器」と呼ばれ、1992年にはトリニダード・トバゴ政府により「国民楽器」として正式に認められました。

毎年カーニバルの時期には「パノラマ」と呼ばれるコンクールが開催され、約160バンド/7,000人が頂上を目指して競い合います。

見どころ  
3

## トリニダード島東部のカロニー湿地帯に生息する深紅の国鳥 「スカーレットアイビス」

カロニー湿地帯は、1962年に国鳥に認定され天然記念物となっている深紅のトキ「スカーレットアイビス」の生息地です。

現在では野鳥保護区になっており、約1万8000羽が生息しているといわれています。

スカーレットアイビスの平均体長は58cm。生まれた時はグレーピンクだった羽が、湿地帯に生息する蟹を食べることで赤くなり、約3年かけて美しい深紅へと変わります。毎日夕方17:30～18:00頃になると、湿地帯に浮かぶ小島の巣に舞い戻るスカーレットアイビスで、空一面が真っ赤に染まる光景が広がります。

\*ベストシーズンは11月～3月ですが、年間を通してほぼ毎日100%に近い確率でご覧いただけます。

スカーレットアイビスの巣までは、カロニー湿地帯のマングローブをかきわけ、ジャングルの中をボートで渡ります。その途中、ボートからはワニや多種類のヘビ、世界最小のヒメアリクイなどのさまざまな野生動物や珍しい野鳥に巡り会えます。





オサガメ

見どころ  
4

### 体長約2メートル・体重500キロの絶滅危惧種「オサガメ」

オサガメの世界最大の産卵地としても知られるトリニダード・トバゴには、著名な研究者たちも数多く訪れます。ベストシーズンは4月～6月で、ほぼ毎日ご覧いただけます。オサガメの産卵地として知られるグランドリビエールビーチは1.6kmほどの狭いビーチで、ピーク時には1日に400頭ものカメが浜へ産卵にやってきます。

### 赤ちゃんガメの保護活動にも参加できる！

6月からは赤ちゃんガメの孵化がスタート。産み落とされた卵は60～70日後に孵化し、約60～80匹の赤ちゃんガメが4時間ほどかけて、一斉に1メートル下の砂から地上へと上がってきます。時期によっては、その瞬間に立ち会えることも。なお、赤ちゃんガメが海に戻ろうと砂の上をヨチヨチ歩いている間に鳥に食べられてしまうことがあります。そのため、ビーチでは人間による救出活動が行われています。なおこの救出活動には、旅行者も一緒に参加することが可能です。



オサガメの赤ちゃん



ハチドリ

見どころ  
5

### 13種類のハチドリを目の前で観察！ハチドリ園「イレット」

トリニダード島に生息する16種類のハチドリのうち、13種類のハチドリを見ることのできるハチドリ園「イレット」。個人宅をハチドリ園として一般開放しているここイレットでは、朝・昼・夕方の3回ツアーを行っています。見るだけでなく生態すべてがわかるガイドが大好評です。

見どころ  
6

### 360度海！沖の真ん中に浮かぶ浅瀬、絶景「ナイロンプル」

グラスボトムボートに乗り20分ほど進むと「ナイロンプル」と呼ばれる海の真ん中にある浅瀬ポイントに到着します。その名前の由来は、「ナイロンでできた透き通ったプールのようなから」という見たままの理由。360度海の真ん中に立つと気分爽快。そしてここには、「ここで泳ぐと10歳若返る!」という言い伝えもあるほどです。海がきれいなことで有名なトバゴ島の中でも、特に美しいポイントです。但し、雨期に入ると海水にベネズエラからの川の水が混ざってしまうため、訪れる場合は乾期(11月～5月)がおすすめです。

またボート出発地の周辺には、近隣の海で獲れた新鮮な魚が味わえるシーフードレストランのほか、ココナッツなどのクラフトのお土産店が立ち並んでいます。



グラスボトムボート内



ボート発着場所



ナイロンプル

見どころ  
7

### トリニダード東部のジャングルに出現！「光るオートイア川」

トリニダード南東部のマヤロ地区にあるオートイア川は、「光る川」として有名。11月～5月の乾期になると地元の人たちが夜な夜なここに集まり、川へ飛び込み水浴びをします。飛び込んだ跡には発光プランクトンが青く光り、とても幻想的な世界が広がります。川の付近に住む人にとっては昔からの楽しみの一つでしたが、2014年春に地元紙に掲載されて以来、一躍人気スポットとなりました。

なお、この光が楽しめるのは乾期のみで、雨期に入ると通常の川へと戻ってしまいます。



光るオートイア川

#### ■ トリニダード・トバゴ基本情報

- 首都** ポート・オブ・スペイン トリニダード島北部に位置し、かつて入植していたフランス式木造建築や英国式教会など、歴史を感じる町並みもみどころです。
- 言語** 公用語は英語
- 時差** 日本との時差は-13時間(サマータイムの実施はありません)。日本が昼の12時の場合、現地は前日の夜23時となります。
- 気候** 亜熱帯と熱帯性気候の境目に位置。雨が多く6～11月は毎日スコールが降る。平均気温は28度。但し貿易風の影響で朝晩は涼しい。
- 電圧** 110ボルト、60ヘルツ仕様。平2つ穴のAタイプが主流。但し、まれに220ボルトの場合もある。
- 通貨** 通貨の単位はトリニダード&トバゴ・ドル(TT\$)、補助単位はセント(Cent)。日本では両替出来ないため、出発前にUSDに両替してお持ちください。USD→現地通貨への両替は、空港やホテル、両替所にて可能です。一方、現地通貨からUSDなどへの再両替は難しいため、余らせることなく使い切るように両替するのがよいでしょう。USDのトラベラーズチェックも有効ですが、現金に比べ換金レートが悪く、また現金ほど使い勝手も良くないため、あまり両替にはおすすめいたしません。クレジットカードはほとんどの都市で利用可能ですが、JCBカードは現地では流通していませんのでご注意ください。なお、現地では日本円は通用していませんので、あわせてご注意ください。
- 飲料水** 水道水の飲用は可能ですが、胃腸が弱い人は飲まないほうが良いでしょう。ホテルの冷蔵庫に入っている水も同様ですので、ミネラルウォーターをおすすめいたします。なおミネラルウォーターには炭酸ガスが含まれているものと含まれていないものがありますので、購入時は間違え無いうちご注意ください。